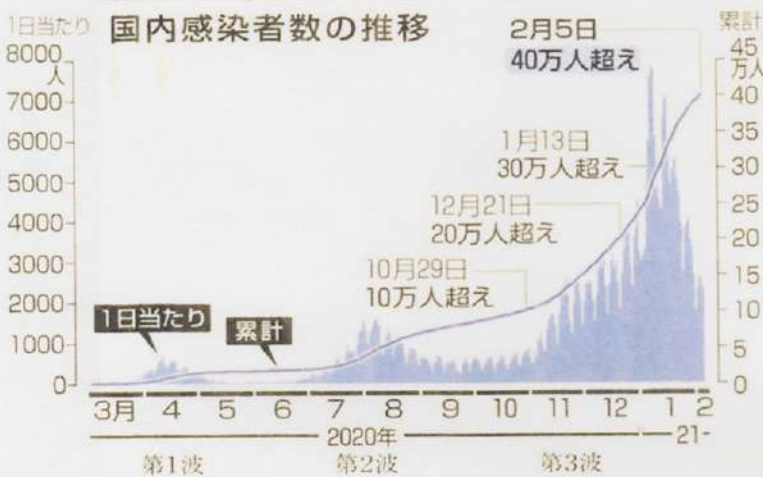


なう年報

特定非営利活動法人「子ども虐待防止センター・しずおか」 2020.4～2021.3

コロナ禍での一年



2019年12月、中国武漢で流行しはじめた新型コロナウイルス、日本にはクルーズ船ダイヤモンド・プリンセスという豪華客船で横浜港からやってきた。

乗船者712名の対応にあたふたとしているうちに、別ルートからいつのまにか全国に広がっていった。

2020年3月5日から全国の公立学校が休校となった。日本で第1波、第2波そして第3波の山を昇り

はじめた頃、世界では変異株のイギリス型、ブラジル型ウイルスの感染が始まった。

そして2021年5月4日には全国での総数613,482人が感染し死者数は10,487人となっていた。静岡県内は総感染者数6,606人、死者数122人。

本会も昨年4月からは、相談室を閉鎖し、総会も紙上での実施とせざるをえなくなった。再開したものの第2波、第3波と流行もピークがやってくるたびに閉鎖を繰り返してきた。

ニュースでは、家で過ごさなければならぬ時間が急増したことにより「家庭内にストレスが蓄積」し、児童虐待のリスクが高まっていると報じていた。このようなときこそ本会の役割が求られているのであるが、かといってコロナに感染し身近に広めるようことは慎まなければならない。

世界未曾有の災害と心しよう。

怒りの矛先 子どもにも

陰る暮らし コロナと女性

家庭内蓄積するストレス

「コロナがなければなんて生活ができたか、なんて思ってしまう。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。」

「コロナがなければなんて生活ができたか、なんて思ってしまう。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。」

「コロナがなければなんて生活ができたか、なんて思ってしまう。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。」

「コロナがなければなんて生活ができたか、なんて思ってしまう。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。」

「コロナがなければなんて生活ができたか、なんて思ってしまう。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。子育ても、仕事も、すべてがストップしてしまっている。子どもも学校に行かなくて、家にずっといる。ストレスが溜まってきている。」

浜松医科大生R2年も受入

今年も、浜松医科大学大学院看護学科生徒5名の研修を受けました。

当初は、5月から実施する予定でしたが、コロナ感染症流行のため、10月、11月に延期になってしまいました。番町市民活動センターで相談活動の現状や相談員の役割などについて話し、そのご相談室を見学してもらいました。

その後児童相談所に移り、児相の現状を連携についての講義を受けました。最後は静岡県男女共同参画センターで女性のための相談活動についての話しを聞きました。浜松医大より指定された教育機関の役割を果たすことが出来ました。



ネット相談スタート

この2月1日、本会念願のネット相談が開始されました。開始に先立ち、赤い羽根共同募金よりの助成をうけて3回の研修会を実施してきました。特に、黒沼先生をお招きしての研修は、もっとお話を聞きたい、話しを聞いてもらいたいという希望が多く寄せられました。

そこで、6月の総会終了後に、黒沼先生を囲んでの研修を実施することになりました。ご期待下さい。

ネット相談、開設以来相談件数ゼロが続いています。相談メールが待ち遠しい。



児童相談所一祝日も勤務

2017年4月から始まった静岡市児童相談所での「189緊急相談電話」、当時は委嘱事業でしたが、2019年からは委託事業とワンランク上の受託となりました。そして、今年度からは土日に加えて祝日も委託を受けることとなりました。